防錆形ターペン可溶2液形シリコン系塗料

防錆形（ボウセイガタ）ファインSi（エスアイ）

塗料液はそのままに、防錆形硬化剤を使用することで
優れた防錆性が付与されます。

ホルムアルデヒド放散等級	F☆☆☆☆

防錆形ファインSiを用いることで、鉄部改修仕様での工程短縮が可能となりました。

■特長

改修塗装において以下の性能を実現しました。

①防錆性

1液変性エポキシ樹脂系さび止め塗料を塗装する3工程での仕様と同等性能です。※1

②工程短縮

上塗り2工程による鉄部改修が可能です。

③使いやすさ

ファインSi塗料液と硬化剤の組み合わせにより、塗料液は1本で
外壁の弾性仕様から鉄部の省工程仕様まで幅広く対応できます。
また、艶調整も対応可能です。

④高耐候性

耐候形1種の性能を発揮します（ファインSi同等、当社試験）。

⑤低汚染性

低汚染機能を発揮します（ファインSi同等、当社試験）。

※ 写真は全てイメージです。

※ 上記の特長は、防錆形硬化剤を混合した場合です。
※1 裏面、防錆性参照。

■用途

鉄部等の改修塗装

■適用素材

素　材	適応性	備　考
鉄	○	—
劣化溶融亜鉛めっき※2	○	白さび除去必須
電気亜鉛めっき	○	ボンデライトなど
ステンレス（SUS304）	○	面粗し必須
アルミ（A1050P）	○	面粗し必須

※2 6ヶ月以上暴露された光沢がないものに使用してください。白さびが発生している場合は必ず除去してください。
表面に光沢がある場合は、塗装を避けてください。
上記以外の下地素材適用性につきましては、最寄りの営業所までお問合せください。

■金属面改修塗装仕様

工　程	塗料名	塗り回数	使用量（kg/m²/回）	塗り重ね乾燥時間（23℃）	希釈剤	希釈率（%）	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺を含め入念に除去する。さびはワイヤブラシや、サンドペーパー・研磨布などを用いて除去し、清掃する。※3						
上塗り①	ニッペ防錆形ファインSi	1	0.12〜0.14	3時間以上	塗料用シンナーA	0〜5	はけ・ウールローラー
						0〜10	エアレススプレー
上塗り②	ニッペ防錆形ファインSi	1	0.12〜0.14	—	塗料用シンナーA	0〜5	はけ・ウールローラー
						0〜10	エアレススプレー

※3 さびの発生が著しい場合や海浜部などの腐食環境が厳しい場合は、防錆形ファインSiの2工程では十分な防錆効果を発揮できない場合があります。
十分な下地調整をした上で、下塗り（ハイポンファインプライマーⅡや1液ハイポンファインデクロなど）を塗装するか防錆形ファインSiの3工程としてください。
★ 特にさびが発生しやすい突起部やエッジ部の塗付け量に注意してください。
★ 屋根面に施工する場合は、必ず下塗り（ハイポンファインプライマーⅡなど）を塗装してください。

ニッペ 防錆形ファインSi

■塗装基準

◆ 混　合　:2液形塗料のため「塗料液:硬化剤＝7:1(重量比)」にて混合し十分にかくはんしてください。

◆ポットライフ:6時間(気温23℃)

■容量・荷姿

防錆形ファインSi	
塗料液	防錆形硬化剤
14kg	2kg
石油缶	偏平缶
塗料液 : 硬化剤 ＝ 7:1	

■色相・つや

色　相	つ　や
各　色	つや有り
	7分つや有り
	5分つや有り
	3分つや有り

■防錆性

複合サイクル防食試験(CCT試験) 120サイクル

1液変性エポキシ樹脂系さび止め塗料を塗装する3工程での仕様と同等性能です。

防錆形ファインSi 2回塗り

当社弱溶剤1液変性エポキシ形さび止め塗料
当社弱溶剤一般シリコン樹脂系上塗り塗料
(下塗り1回、上塗り2回の計3回塗り)

■施工上の注意 (詳細な内容につきましては、製品使用説明書などにてご確認ください。)

- 「3～7分つや有り仕上げ」の場合、上塗りの1回目に「つや有り」、2回目に「3～7分つや有り」をご使用ください。
- さびの発生が著しい場合や海浜部などの腐食環境が厳しい場合は、本品の2回塗りでは十分な防錆効果を発揮できない場合があります。十分な下地調整をした上で、下塗り(ハイポンファインプライマーIIなど)を塗装するか、または本品を3回塗りしてください。
- 使用量はしっかりまもってください。特にさびが発生しやすい突起部やエッジ部の塗付け量に注意してください。
- 屋根面に施工する場合は、必ず下塗り(ハイポンファインプライマーIIなど)を塗装してください。
- FRP、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整(目粗し)を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合がありますので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
- 立体駐車場床面、木部などの部材への塗装は避けてください。
- 貯水槽などで藻の発生を抑制するために遮光性能を必要とする場合は、下塗りおよび上塗りともに規定の使用量をおまもりください。使用量が不足すると遮光性能が低下しますのでご注意ください。なお、塗装することにより太陽光の透過を完全に遮断するものではありません。一部の太陽光が透過していても規定の使用量がまもられていれば、十分に藻の発生の抑制効果が得られます。
- つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通しで塗装してください。
- 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- 著しい汚染が発生しそうな個所には、状況に応じてニッペクリスタコートをオーバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
- 塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。
- 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- 異なる色相を塗り重ねる場合(例: 1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など) 2回目の上塗りが1回目の上塗りを侵してラインや帯などが変色(ブリードにより)する場合がありますのでご注意ください。
- 結露の著しい個所では、JIS K 5629(鉛酸カルシウムさび止め)の上には、塗装を避けてください。
- 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- 硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
- 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- 内部塗り替えにおいて旧塗膜がOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- 既存塗膜のはく離個所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- 塗装場所の気温が5℃以下、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。
- 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。
- 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- 可塑剤が多く含まれる塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

■安全衛生上の注意事項

ニッペ防錆形ファインSi 　**横倒禁止**

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 使用前に取扱説明書を理解して、取り扱ってください。
- 熱/火花/炎/高温のもののような着火源から遠ざけてください。－ 禁煙です。
- 容器を密閉してください。
- 容器および受器を接地してください。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用してください。
- 火花を発生しない工具を使用してください。
- 粉じん/ガス/蒸気/スプレー等を吸入しないでください。
- 必要な時以外は、環境への放出を避けてください。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないでください。
- 取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行ってください。
- 適切な保護手袋/防毒マスクまたは防塵マスク/保護眼鏡/保護面/保護衣を着用してください。
- 必要に応じて個人用保護具を使用してください。
- 飲み込んだ場合:気分が悪い時は、医師に連絡してください。口をすすいでください。
- 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外してください。その後も洗浄を続けてください。
- 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けてください。
- 皮膚や髪に付いた場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ取り除いてください。皮膚を流水かシャワーで洗ってください。
- 皮膚に付いた場合、多量の水と石鹸で洗ってください。
- 取り扱った後、手を洗ってください。
- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けてください。
- 直ちに、すべての汚染された衣類を脱いでください/取り除いてください。再使用する場合には洗濯してください。
- 粉塵、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった時には、安静にし、必要に応じてできるだけ医師の診察を受けてください。
- 暴露した時、気分が悪いなどの症状がある場合は、医師に連絡してください。
- 緊急の洗浄剤が必要な場合、直ちに特別処置を実施する。
- 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
- 水を消火に使用しない。適切な消火剤として、粉末、乾燥砂がある。
- 容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管してください。
- 施錠して子供の手の届かないところに保管してください。
- 直射日光や水濡れは厳禁です。
- 塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も50℃以上(スプレー缶の場合は40℃以上)の温度に暴露しないでください。
- 内容物/容器を廃棄する時には、国/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
- 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
- 汚染された作業衣は密封袋に入れて作業場から出してください。
- 適切な呼吸用保護具を着用してください。
- 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。

*上記の表示は、一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。

■詳細な内容、表示例以外の商品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危　険	危険有害性情報
	引火性液体および蒸気/皮膚刺激/強い眼刺激/吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ アレルギー皮膚反応を起こすおそれ/遺伝子疾患のおそれ/発がんのおそれの疑い/生殖能力または胎児への悪影響のおそれ 臓器の障害(単回暴露)/長期にわたるまたは反復暴露による臓器の障害/水生生物に非常に強い毒性(急性) 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

日本ペイント株式会社

お客さまセンター

☎ 03-3740-1120

☎ 06-6455-9113

http://www.nipponpaint.co.jp/

●さらに詳しい情報は、専用Webサイトへアクセス
http://www.nipponpaint.co.jp/biz1/building.html

日本ペイント　建物 [検索]

カタログNo.
NP-S084
AA140910T
2014年9月作成